

# “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

## 6年 学習発表会の様子



## やさしさのつながり

校長 丹羽正昇

2月の後半、授業参観があり、多くの保護者の皆様にお越しいただきました。ありがとうございました。6年生の学習発表会、4年生の10才を祝う会では、節目ということもあり、子どもたちの思いがさまざまな形で表現されておりました。いずれもすばらしい会になったのではないかと思います。

子どもたちの思いが表現される。授業参観や節目の会においては、その相手は間違いなく親や家族です。事実、学習発表会や10才を祝う会では、親への感謝の気持ちを語るひぐみっ子の姿に、たくさん接することができました。やはり、子どもにとって「親」の存在はかけがえのないものだとも再認識しました。

私がここで「親」と言っているのは、なにも一般的な意味での親のことを言っているわけではありません。私は「親」には、多くの種類や存在、意味があると考えています。生みの親、育ての親、人生の師、偉人、あこがれの人、ライバル、学校の先輩、職場の上司、キャリアは浅いけど信頼できる後輩、同級生、友達、仲間、幼馴染など、どの人も「親」になり得ると思うのです。そう思うことは、このところ、特に多くなってきているようです。これまでに出会ってきた多くの「親」のおかげで、私はここまで生きてくることができたのだ。そのように、少し大げさかもしれませんが、しみじみとじっくりと想いを馳せていることがあります。



4年 10才を祝う会の様子

そんな「親」のありがたさを語る際に、ご紹介したいエピソードがあります。それは、毎年10才を祝う会でのある場面でのこと。その会では、子どもたちが自分の夢を語ったり、感謝の気持ちを話したりします。そのときの保護者の皆様の様子が感動的なのです。自分のお子さんの番がくると目を細め、その成長した姿に涙するというのは、どなたも想像できます。感動的なのは、他のお子さんのときにも涙している姿なのです。私にとっては、それこそが「親」としてのすばらしい姿だと思う瞬間であり、「親」の存在をありがたいと思り返す機会でもあります。自分の子どもの成長だけでなく、他の子どもの成長も喜ぶことができる。こんなにも美しい光景の中で、ひぐみっ子は育っています。そうです。私が「親」と言っているのは、どの人の成長も心から期待し、喜べる人のことなのです。

これまでの私の人生においても、私自身の成長を、まるで自分のことのように喜んでくれた人たちとの出会いがたくさんありました。私は、その人たちの愛情に支えられながら大人になり、大人になってからも成長し続けることができているのだと感謝しています。人との出会いが人を成長させ、その成長した人が「親」となって、だれかの人生の中で影響する存在となり、その人を成長させる。そして、その成長した人が「親」になって……というやさしさのつながりがつくる世界。想像するだけで、心が温かくなるように思います。

やさしさのつながりの中に、いまの学校は入っているだろうか。ひぐみが担う役割の一つとして、認識されているだろうか。学校を預かる身としては気になるところです。ひぐみっ子は、ひぐみでの学校生活において、たくさんの人と出会い、日々自らが成長しようと努力しています。そのひぐみっ子にとって、ひぐみは「親」として十分だろうか。特に、3月17日に巣立っていく6年生にとってはどうだろうか。母校としてのひぐみ。卒業していく6年生にとって、いつまでも「親」でありたいと願う。別れと出会いの季節に想うことです。

